

KAWASAKI 北部 循環器&消化器 Forum

～抗血栓療法のための消化管出血の知識～

日時 : 2014年 11月 17日 (月) 19:30～21:00

場所 : ホテルモリノ新百合ヶ丘 7階 桜の間
川崎市麻生区上麻生1-1-1 044-953-5111

【Opening Remarks】 岡野内科医院 院長 岡野 敏明 先生

【講演Ⅰ】

【座長】 聖マリアンナ医科大学 循環器内科 教授 明石 嘉浩 先生

『胃酸関連疾患の今後と他疾患との関連』

【演者】 総合川崎臨港病院 院長 渡邊 嘉行 先生

【講演Ⅱ】

【座長】 帝京大学医学部附属溝口病院 第四内科 教授 村川 裕二 先生

『抗血栓療法をめぐる話題』

【演者】 心臓血管研究所 所長 山下 武志 先生

【Closing Remarks】 はとりクリニック 院長 羽鳥 裕 先生

生涯教育講座1.5単位、CC:15臨床問題解決のプロセス、50吐血下血、73慢性疾患・複合疾患の管理を取得できます

会終了後に、情報交換会を予定しております。
共催:川崎市医師会・川崎市内科医会・武田薬品工業株式会社

演者Message



総合川崎臨港病院 院長 渡邊嘉行 先生

食の欧米化は、年齢を問わず胃酸分泌量の増加につながり、高齢化社会に突入した我が国においても、酸関連疾患に対する治療として重要な問題です。胃酸分泌抑制剤 (Proton pump inhibitor: PPI) の登場は、消化性潰瘍をはじめとした酸関連疾患の治療に多大なる貢献をしてきましたが、とくに高齢者に服用頻度が高いアスピリンやNSAIDsによる潰瘍対策に対しては、もうひと工夫が必要にも思われます。この課題に対し、我々が検討した内容も含めてご紹介させていただきます。



心臓血管研究所 所長 山下武志 先生

心房細動に伴う脳梗塞発症予防の時代は変革した。抗凝固薬ワルファリンだけが有効とされてきた長い歴史を経て、複数の新規経口抗凝固薬 (Novel oral anticoagulant: NOAC) が相次いで登場し、その利便性は格段に向上した。これらの新しい複数の薬物により、心房細動患者の脳梗塞予防はますます普及するだろう。しかし、良いことばかりだけではない。医療者にとって新しい課題が持ち上がる。複数からの選択という困難、抗血小板薬と抗凝固薬の併用という危うさ、抗血栓薬の普及とともに必ず生じる大出血の増加である。これらの課題に対する解答はまだ用意されていない。